

J A たまな女性部活動報告

J A たまな管内は、有明海に面した水田地帯から金峰山や小岱山の中山間地域まで幅広く、J A 女性部（春口禮子部長）は9支部1、036名で構成されています。

女性部では、各支部や地域との連携を密にとりながら活動しています。食の安全性に不信感が増大しつつある中、女性部では特に食の安全・安心に重点を置いて活動しています。

○次世代を担う子どもたちへの食育活動

子どもたちが地産地消を学ぶきっかけにして欲しいと、女性部では毎年、地元産大豆



▲手作りみそが使われた給食を子どもたちと一緒に食べる春口部長

を使った手作りみそを贈呈しています。28年は132kgを管内の小中学校へ贈呈し、給食で使用されました。

J A たまなが毎年開講している「親子わくわく体験農園」では、子どもたちへ地元産の食材を使った手料理を振る舞ったり、一緒にロング巻き寿司を作ったりしました。



▲親子わくわく体験農園で参加者とロング巻き寿司を作る女性部員



▲伝統料理教室で子どもたちといきなり団子を作る女性部員

また、伝統料理に関心を持ってもらいたいと、地元小学校へ出向き、子どもたちと一緒に「いきなり団子」作りにも取り組みました。

○家の光大

J A たまな地方合同家の光大会では、春口部長が「家の光や日本農業新聞の記事を参考にしながら、元気に明るく楽しく女性部活動を頑張っていきましょう」と女性部員に力強く呼びかけ、部員同士の結束を高めました。「家の光」記事活用体験発表では、菊水支部の林君代さんが、家の光に掲載されていたレシピや家庭菜園の方法、読み聞かせ童話を活用して前向きに生活していることを発表し、会場から温かい拍手をもらっていました。



▲発表する林さん

○生産部会女性部との交流

なす部会女性部と合同でなすの料理講習会を開きました。両女性部員は和気あいあいとした雰囲気の中、楽しくおしゃべりしながら「なすの蒲焼」や「なすとサケフレークのはさみ揚げ」、「なすジャム」など、なす尽くしの料理を作り、親睦を深めました。



▲料理講習会の様子

○ふれあいミニデイサービス

ミニデイサービスは、介護保険の対象とならない方々に生きがいと社会参加を促進する介護予防の一環として、年に4回程度行っており、健康体操やゲームの後に女性部手作りの食事で楽しんで頂いています。

○フレッシュミズ部会

日頃は各支部で活動を行っています。熊本地震時はフレッシュミズ部員の力がひとつとなり、生活用品やトマト・きゅうりを持ち寄り、被災地への支援を行いました。「新鮮な野菜を食べるのは久しぶり」と喜んでいただきました。



▲ゲームを楽しむ参加者



▲きゅうりの浅漬けと新鮮ミニトマト